Bulletin of the Educational Research and Development, Faculty of Education, Kagoshima University
2010, Vol. 20, 311-320

報 告

国語科における音読指導の系統的実践
～小学校第４学年「読むこと」の授業を通して～

星　原　貴　光〔鹿児島市立田上小学校（鹿児島大学教育学部代用附属学校）〕

Systematic Instrution for Reading Alaud in Japanese Language Teaching

HOSHIHARA　Takamitsu

キーワード：国語科授業，音読と朗読，学習の系統性，言語活動の充実，音声化

１．はじめに

音読は，これまでも広く行われてきた言語活動の一つである。今回の学習指導要領改訂においては言語活動の充実が示され，特に音読については，「読むこと」の指導事項アとして明確な位置付けがなされたことや，指導時期が高学年にまで広がったことに注目したい。

ところで，音読はほとんどの学年・学級で取り上げられ，繰り返し行われている割には，児童の姿として学習後の伸びや変容をあまり感じられないという印象もある。これは自らの反省として，「音読」に関する指導の目的や系統性等を明確にしないまま，ただ繰り返し活動させていたという課題があった。

そこで，本実践では，第４学年国語科「読むこと」の単元の中で，特に文学的文章を扱う時間について，年間を通して系統的に音読を取り入れ，より学習効果の高い音読指導の在り方について探ることとした。

２．音読指導の意義

音読の目的には，１）学習の範囲や内容を確かめるための読み，２）言葉の響きを味わうための読み，３）文章理解を深めるための読み，４）自分の考えや気持ちを伝えるための読み，５）覚えるための読み，６）声を鍛えるための読み，等が挙げられる。本実践では，これら目的の違いを明確にし，授業のどの過程にどのような音読活動を取り入れるか工夫した。

一方で音読は，ただ「読む」のではなく，「声に出して読む」という課題も含む。そこで，「話すこと･聞くこと」の領域とも関連を図りながら，「音声化」についても意識をもち，音読から朗読，スピーチへと学びが発展する系統的指導を試みることとした。

３．児童の実態

本学級の音読に関する実態は４月の段階で，初読の物語文１段落を，読み間違いをせずに読める児童が３割程度，その中でも，すらすら読めている児童は，わずか１割程度という実態であった。これに，適切な声量や速度で読めるという観点を加えると，ほとんどの児童が，まだ十分に音読できているとは言えない実態である。

図１　教科書を見ながら音読する様子（４月）

４．年間指導計画の作成

前述のような児童の実態を踏まえ，音読に関する年間指導計画を以下のように設定した。

時期	教材名等	活動の重点
４月	３つのお願い	音読・部分暗唱
５月	春のうた	群読・全体暗唱
７月	白いぼうし	朗読
９月	ぼく	群読・動作化
10月	一つの花	音読発表会
11月	学習発表会	音読劇（学年全体）
２月	半成人式	スピーチ

年間指導計画の立案に当たっては，児童の音読に対する学習意欲が持続できるようにし，また，音読に必要な能力をスモールステップで学べるように工夫した。

具体的には，学年末に保護者を招いて開催する「半成人式」を音読学習の長期的なゴールとし，全ての児童が，大勢の前でも堂々とスピーチができることを最終的な目標の姿とした。

「半成人式」でスピーチを行うには，原稿を暗唱して話すこと，聞き手をモニタリングしながら話すこと，動作を加えて話すこと，そして，適切な声で話すことなど，様々な能力が必要不可欠である。これらの能力を「話すこと」の時間だけで習得させることは困難であるため，「読むこと」の領域とも関連させながら，音読を通してスピーチに必要な能力についても学ばせることにした。また，年間を通した長期的な学習となるため，学びの実感や意欲を持続できるよう，定期的に学習成果を発表できるよう機会の充実にも配慮した。

５．実践の具体

⑴　声の自覚化

音読には，いくつかの課題があるが，その多くは，声の大きさや読む速度，間の取り方など，声に関する課題が多く，意外にもほとんどの児童が，自分の声が聞き手にどのように伝わっているのかをあまり意識しないまま話したり，音読したりしている場合が多い。

そこで，４月教材「三つのお願い」では，まず，自分の声を知るということに重点を置き，よりよい声の出し方について指導することとした。

図２　音読のポイントをまとめたパネル

音読のポイントとしては，１）大きさ，２）速さ，３）抑揚，４）アクセント，５）間，などがあり，これらは，スピーチをする場合の声の出し方とも共通する。これらの意味を理解させた後，児童の意見を聞きながら，分かりやすいように音読記号にまとめた。

また，この５つのポイントをもとに，各自の声を相互に評価し合い，自分の声を自覚化させるようにした。

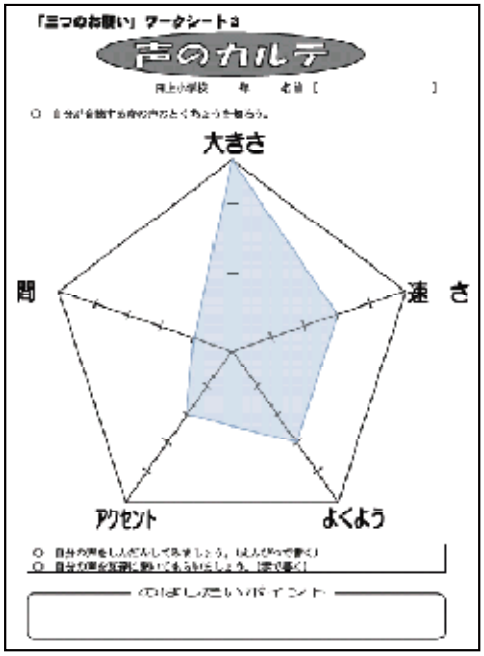

図３　声のカルテ

国語科学習指導（略）案

4年1組　30名　　指導者　　星　原　貴　光

1　単元　本と出会う，友だちと出会う　「三つのお願い」

2　本時（7／10）

（1）　目標

文章全体の内容や構成からその中心を把握して，自分の思いや考えと合わせながら音読の仕方を工夫することができるようにする。

（2）　評価規準

音読の5つのポイントを組み合わせ，場面の様子に合うように音読を工夫することができる。
【読む能力】

（3）　指導に当たって

本時では，自分なりに想像した登場人物の性格や気持ちの変化を聞き手にもよく分かるように音読することをねらいとしている。導入では，声の玉手箱を使って，音読の5つのポイント（声の大きさ，速さ，言葉の抑揚，強弱，間の取り方）を確認する。展開では，叙述を基にグループで内容の中心や場面の様子を考えさせる。また，教材文に印を付けたり書き込んだりしながら，自分の思いや考えを音声化できるようにする。終末では，互いの音読を発表し合い，それぞれの読み方の違いやよさに気付くことができるようにする。

（4）　本時の展開　　〔　〕子どもの意識　　□指導　※評価

時	過程	主な学習活動と教師の手だて・評価	
(分) 7	導入	1　前時までの学習を振り返り，本時の学習範囲を確認する。 〔・音読の仕方を変えると，場面の様子がとても違って聞こえるんだな。〕 2　学習のめあてと進め方を確かめる。 登場人物の性格や気持ちがよく分かるように音読の仕方を工夫しよう。 〔・どのように音読したら，人物の性格や気持ちを表すことができるのだろう。〕	**前時までに学習した印の付け方や音読の5つのポイントを「声の玉手箱」を使って思い出させながら，学習への意欲をもつことができるようにする。** 学習の見通しがもてるように，本時は，グループで課題解決を図った後，**音読発表し合うことを知らせる。**
28	展開	3　叙述を基に登場人物の性格や気持ちの変化を考える。 〔・会話文や地の文に気を付けて読めば，性格や気持ちがとらえやすいぞ。 ・同じ文章を読んでも，人によって思いや考えは，だいぶ違うんだね。〕 4　場面の様子に合うよう音読の仕方を考え，印を付けたり書き込んだりする。 〔・「うれしそうな」気持ちは，大きく強く読むとよさそうだね。 ・印や書き込みを見ながら読むと，声の出し方がとてもよく分かるね。〕	グループに分け，教材文に印を付けたり書き込んだりさせながら**自分の思いや考えを音声化**できるようにする。 ※　音読の5つのポイントを組み合わせ，場面の様子に合うように音読を工夫することができる。 （活動の様子，教材文の印や書き込み） ○　音読が工夫できている子どもには，暗唱に挑戦させる。 ○　音読が工夫できていない子どもには，ヒントを与え個別指導する。
10	終末	5　音読発表し合い，感想を交流する。 〔・○○さんの読み方は，とてもいいな。自分の音読にも生かしてみよう。〕 6　学習の成果を話し合う。 ・登場人物の性格や気持ちを音声化するときは「～ような」「～そうな」「～みたいな」などの言葉で表すといいね。 ・場面の様子を考えて，音読の5つのポイントを組み合わせればいいんだね。 7　次時の学習への意欲をもたせる。 〔・自分の役割の部分をしっかり読めるように練習して，上手に音読できるようにがんばりたいな。〕	音読発表の際は，**どうしてこの場面を選んだのか，どのような点を工夫して音読したのか**などについて尋ね，文章内容の理解についても深めることができるようにする。 次時は，**クラスで音読劇発表会を開く**ための練習を行うことを知らせ，学習に対する意欲を高める。

⑵　声の出し方の指導

様々な場面に応じた声の出し方ができるよう，教具に「声の玉手箱」を用意した。

図４　声の玉手箱

声の玉手箱の中には，

「おい，きみ。」
　　「何してるの。」
　　「こっちにおいで。」

と書いた３枚の短冊と，
・「あわてている」
・「おこっている」
・「こまっている」
と書いたカード，その他，音読記号のマグネットカード等が入れてある。

これらを組み合わせ，
『「おい，きみ。」という文を「おこっている。」ように（みたいに）読んでみよう。』というように，実際に声に出して読ませながら，声の大きさや速さ，間の取り方などを変えると，その場面や心情に合った読み方になることを体験的に学ばせた。

また，「こまっている」ときの声，「おこっている」ときの声などを聞き比べさせ，声の出し方には，どのような違いがあるかを分析的にとらえさせ，音読記号でその違いを表現できるようにした。

これらの活動を通して，児童は，「うれしそうな声」「かなしそうな声」「くるしそうな声」など，様々な場面に応じた読み方ができるようになり，教科書に音読記号やト書を付けて，読み方を工夫する姿が見られるようになってきた。

図５　動作を付けて音読する様子（４月）

⑶　群読の指導

読み方の工夫を理解し，音読に対する自信を付けてきた５月には，「春のうた」（草野心平作）で群読に挑戦させた。ここでは，文章も短いので全員が全体暗唱することとし，小グループに分かれて，それぞれが声を重ねて読むところ，輪唱のように同じ文章を繰り返したり，追いかけたりして読むところなどを話し合って決めさせた。

図６　群読指導用のパネル

また，ここでは，読む役割や動作の付け方，読み方の工夫など，自分たちが話し合って決めたことをどのようにシナリオに書き込んで行けばよいかについても学ばせ，この単元以降に学習する音読劇やスピーチにおいても，スムーズなシナリオ作りができるようにした。

国語科学習指導略案

4年1組　30名　　指導者　星原貴光

本授業では，以下の検証を行うものである。
○　詩の楽しさには，心情や情景，作者の思いなどを想像して読む楽しさと，声に出して読む楽しさの２つがあることを知り，既習のえんぴつ読みを発展させたり，音読のバリエーションを広げたりしながら，詩の楽しさを感じることができたか。

1　単　　元　詩を楽しもう　「春のうた」

2　指導計画（総時数２時間）

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
課題をつかむ	1　「春のうた」を全体で音読し，初発の感想を発表する。 2　「詩のレストラン」のメニュー表を見ながら，これまでに学んだ詩や経験した読み方を思い出し，本単元でやってみたい詩の楽しみ方を協議する。 3　学習のめあてを決め，学習計画を立てる。 新しい詩の読み方に挑戦し「春のうた」を楽しもう。 【関：詩に関心をもち，楽しめそうだという見通しをもっている。】	0.5
情報を読み取る 情報をもとに考える	4　草野心平さんの書きぶりを他のモデル文と比較して読み，作者のこだわりやそこから見えてくる作者の思いなどを想像して読む。 【言：言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付き，作者のこだわりや伝えたい思いを感じている。】 5　教師とのロールプレイングやワークシートへの書き込みを通して，情景を想像して読む観点（いつ・どこ・なに・どんな・どれくらい）を見つける。 6　既習のえんぴつ読みを生かし，「春のうた」の情景を想像して読む。 【読：観点に気を付けながら，叙述を基に情景を想像して読んでいる。】	0.5
主体的に表現する	7　範読ＣＤを聴き，群読の大体をとらえたり，群読の面白さを見付けたりする。 8　教師とともに試しの群読を行い，役割の決め方や声の重ね方を学ぶ。 9　グループで「春のうた」の群読シナリオを作成する。 10　群読発表会を開き，それぞれのよいところを見付けて感想を伝え合う。 【読：群読の仕方を理解するとともに，自分が想像した場面の様子を相手にもよく分かるように工夫して音読している。】	1 本時

3　本　　時（２／２）

(1)　目標
場面の様子を想像して読んだり，声に出して読んだりすることを通して，詩の楽しさを感じることできるようにする。

(2)　評価規準
群読の仕方を理解するとともに，自分が想像した場面の様子を相手にもよく分かるように工夫して音読している。【読む能力】

(3)　指導に当たって
本時では，群読を通して２つの詩の楽しさ（場面を想像して読む楽しさ，声に出して読む楽しさ）を感じさせることをねらいとしている。導入では，範読ＣＤを聴かせ，詩の群読に対する意欲を高めるとともに，群読の仕方を理解させる。展開では，既習のえんぴつ読みを生かして，グループで想像を広げながら読ませるとともに，場面の様子に合った声の出し方や動作を考えさせていく。終末では，群読発表会を開き，感想を述べたり，自分の感想が友達の感想と比べてどのような特徴をもつのかをとらえたりすることができるようにする。

(4)　本時の展開　　〔　〕子どもの意識　　教師の手立て　※評価

時(分)	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価
7	導入	1　範読ＣＤを聴き，群読の大体を知る。 ・声を重ねて読むと楽しさが広がるな。 ・わたしたちも「春のうた」を群読してみたいな。 2　学習のめあてと進め方を確かめる。 「春のうた」の群読シナリオを作って，グループで群読しよう。 ・どのように音読したら，初春の情景やかえるの気持ちを伝えられるだろう。 既習教材「いるか」（谷川俊太郎作）などの範読ＣＤを聴かせ，詩を想像して読んだり，声に出して読んだりしたいという思いをふくらませるようにする。 学習の見通しがもてるよう，本時は，グループでえんぴつ読みやシナリオ作りをした後，群読発表会を開くことを知らせる。
28	展開	3　観点に気を付けながら，かえるの気持ちや初春の情景を想像して読み，グループで交流する。 ・「どうして」「なぜ」は，気持ちを想像するときに役立つ観点だったね。 ・「どれくらい」「どんな」などは，情景を想像するときに役立つ観点だね。 ・場面の様子というのは，心情と情景の２つから成り立っていたんだなあ。 4　場面の様子に合うようにグループで声の出し方や重ね方を考え，印を付けたり書き込んだりしながら，群読のシナリオを作る。 ・以前学習した音読の５つのポイントが役立ちそうだね。 ・群読では，音読記号に加えて，役割や重ね方も書き込む必要がありそうだ。 既習のえんぴつ読み（登場人物の心情を想像する読み方）に，新しく情景を想像して読むための観点を加えることで，場面の様子をより具体的にイメージできるようにする。 ※　群読の仕方を理解するとともに，叙述を基に想像を広げながら詩を読み，場面の様子がよく分かるように工夫して音読することができる。 （活動の様子，印や書き込みの観察） ○　声の出し方が工夫できている子どもには，暗唱に挑戦させたり，場面の様子に合う動作を考えさせたりする。 ○　声の出し方が工夫できていない子どもには，学習ボードを手がかりに想像を広げさせ，声の出し方を個別に指導する。
10	終末	5　グループで群読発表し，感想を交流する。 ・まるで，たくさんのかえるがあちこちで春の到来を喜んでいるようだ。 6　学習の成果を話し合う。 ・想像して読んだり，声に出して読んだりすると詩の楽しさが広がるね。 ・確かなイメージをもつことで，場面の様子を伝える音読ができるんだね。 7　今後の学習へ意欲をもたせる。 ・詩を読むって楽しいな。 ・音読って奥が深いんだね。もっと上手に読めるようになりたいな。 本時の最後に，群読発表会を開くことで，目的意識を高めたり，評価意識を高めたりする。また，本時の学習方法は，今後の音読活動のモデルとなるので，学習の手順などについても振り返らせるようにする。 今後の学習でも音読を継続・発展していくことを知らせ，声に出して読むことへの意欲を高めるようにする。

⑷　読んだことを音読に生かす指導

小学校学習指導要領解説国語編においては,「朗読は，読者として自分が思ったことや考えたことから対象としている文章の全体的なイメージを明確にし，そのことを相手に分かってもらうように伝えようとして音声化するものである。」と定義され，また,「音読が，文章の内容や表現をよく理解し伝えることに重点があるのに対して，朗読は，児童一人一人が自分なりに解釈したことや，関心や感動をしたことなどを，文章全体に対する思いや考えとしてまとめ，表現性を高めて伝えることに重点がある。」と定義している。

ここまでの学習で，児童には，表現としての音読の力は高まってきているものの，文章を読んで自分なりに感じたり考えたりしたことなどを生かして音読できるようになったかと言えば，まだ十分な力は身に付いていないと感じられた。

そこで，７月教材「白いぼうし」では，文章内容の理解に重点を置き，登場人物の心情や性格，人柄などに深く迫る読み方を身に付けさせ，そこで感じた感動や自分なりの考えを聞き手にもよく伝わるように音読することを目標に学習を設定した。

図７　登場人物の心情を読む「えんぴつ読み」

図８　えんぴつ読みを生かした心情把握

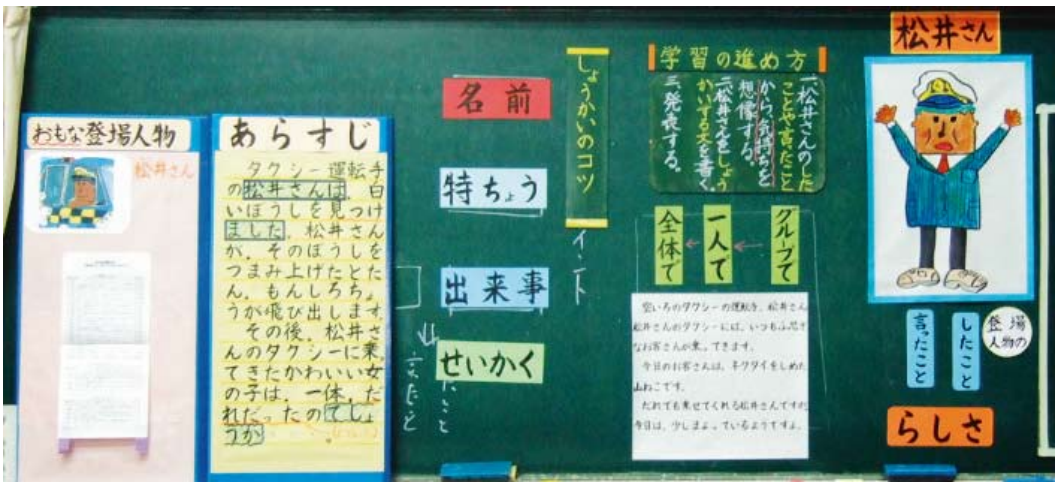

図９　教材「白いぼうし」の板書（７月）

本単元では，図７，図８の通り，登場人物の会話や行動から心情を読み取る「えんぴつ読み」の手法を取り入れた。

児童は，教材文で「えんぴつ読み」の仕方をモデル学習した後，「白いぼうし」と同じ「車の色は空の色」シリーズの中から，好きな話を選んで，それぞれが読み取った登場人物の人柄や性格，心情，あらすじなどをリーフレットにまとめ，紹介し合う活動を行った。

この交流を通して，多くの児童は，図11のように，松井さんの人柄を「優しくて真面目」，「思いやりのある人」，「温かくて人のことを優先する人」ととらえたようである。また，中には，「ユーモアのある人」，「あわてんぼうな人」などといった，シリーズ読みならではの良さを生かした読み取りができた児童も見られた。

終末の好きな場面を選んで音読発表する活動では，松井さんの優しい人柄や温かな性格がよく伝わるよう，相互にアドバイスし合いながら，これまで以上に声の出し方を工夫して，心の伝わる音読ができるようになった。

図10 「読むこと」の常掲パネル

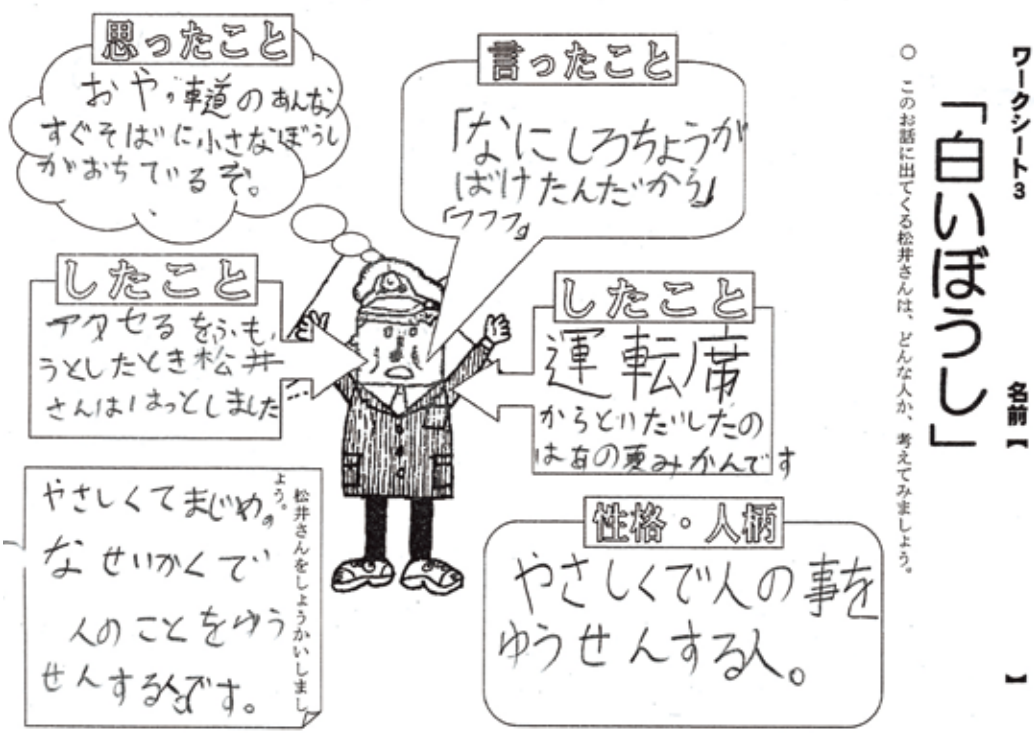

図11 「白いぼうし」のワークシート

授業Ⅰ

国語科学習指導略案

4年1組　30名　指導者　星原貴光

○ 本授業では，以下のような検証を行うものである。
自分が紹介したい話の中から，登場人物の性格や気持ちを想像して読み，紹介する文章に書き表すことができたか。

1　単　　元　本と友達になろう　「白いぼうし」

2　指導計画（総時数１６時間）

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
課題をつかむ	1　「白いぼうし」を読み，心に残った場面について，感想を書く。	1
	2　感想を交流しながら学習のめあてを決め，学習計画を立案する。	1
	「車のいろは空のいろ，シリーズの中から，話を選んで紹介しよう。」	
	【関：学習への見通しをもち，進んで読書を楽しもうとしている。】	
情報をもとに考える情報を読み取る	3　モデルとなるリーフレットの構成を読み，書き方を学ぶ。	2
	【読：中心となる語や文に注目して要点をまとめたり，小見出しを付けたりすることができる。】	
	4　会話や行動などの叙述を基に，登場人物の性格や気持ちを想像して読む。	2
	5　色・音・においなどを表している言葉を手がかりに，情景を想像して読む。	2
	6　場面の移り変わりなどに注意しながら読み，ファンタジーの面白さをとらえる。	2
	【読：登場人物の性格や気持ち，情景などについて叙述を基に想像して読んでいる。】	
	【言：修飾と被修飾との関係や指示語が果たす役割などを理解して読んでいる。】	
	7　前時までの学習を生かしてシリーズを読み，紹介したい話を探して読む。	2
主体的に表現する	8　これまでに学んだ読み方を生かし，自分が紹介したい話を取り上げてリーフレットにまとめる。	3 本時
	【読：叙述を基に登場人物の性格や情景を想像しながら読み，紹介するために必要な部分を書き抜いたり，要約したり引用したりしている。】	
	【書：読んだり集めたりした資料を効果的に使い，紹介文を書いている。】	
	9　書いたものを交流し，よいところを見付けて感想を伝え合ったり，今後の読書計画を立てたりする。	1
	【関：ファンタジーやシリーズ，同一作者の作品などに関心をもち，進んで読書の範囲を広げようとしている。】	

3　本　　時（14／16）

(1)　目　　標
自分が紹介したい話を取り上げ，叙述を基に登場人物の性格や気持ちなどをとらえ，説明することができるようにする。

(2)　評価規準
登場人物の行動や会話などの描写から，人物の性格や気持ちを関連的にとらえ，想像力を働かせながら読んでいる。【読む能力】

(3)　指導に当たって
導入の段階では，学習の見通しをもつことができるように，リーフレットの構成や書き方を振り返らせるとともに，本単元で身に付けてきた読む力（書き抜きや要約，引用）を自覚化させる。
展開の段階では，会話や行動描写から登場人物の性格や気持ちをより深く想像して読むことができるように，教材文「白いぼうし」やシリーズの他の話と重ねながら読ませるようにする。また，自分の考えを友達と吟味させることで，読みをより確かなものへとできるようにする。
終末の段階では，書いたものを交流し，よいところを見付けて感想を述べさせることで，読んだり書いたりする楽しさを味わわせるとともに，次時の学習への意欲を高めていくようにする。

(4)　本時の展開　　〔　〕子どもの意識　▭ 指導　※評価

時	過程	主な学習活動と教師の手だて・評価	
(分) 7	導入	1　前時までの学習を想起し，リーフレットの様式を確認する。 ・リーフレットを作るためには，書き抜きや要約，引用する力が必要だね。 ・みんなが読みたくなるような紹介文を早く書きたいな。	単元のまとめでは，自分が紹介したい話の人物紹介やあらすじ，お気に入りの場面やおすすめポイントなどを１つにまとめたリーフレット作りを行うことを確認させる。
		2　学習のめあてと進め方を確かめる。 登場人物の紹介文を書くには，どんなことに気を付けて読めばいいのだろう。 ・今日の学習では，リーフレットの「おもな登場人物」コーナーを書くんだな。 ・「三つのお願い」を読むときに学習した読み方が生かせそうだぞ。	本時では，これまでに学習してきた登場人物の性格や気持ちを想像して読む読み方が生かせることに気付かせ，学習への見通しをもたせる。
28	展開	3　自分が紹介したい話の中から，心に残った場面を選び，松井さんの性格や気持ちを想像して読む。 ・性格や気持ちを想像して読むためには人物が「したこと」や「言ったこと」から，つながりのある文や言葉を見付け，読み進めるといいね。	人物の会話や行動描写の中から，関連する言葉を線でつなげ，「なぜ（どうして）～したのか（言ったのか）」などを中心に考えさせるようにする。
		4　叙述を基に，それぞれが想像した松井さんの人物像をグループで吟味する。 ・ぼくは，松井さんの行動（会話）から，きっと○○な人だと思う。 ・読んだ話は違っても，松井さんの会話や行動には，似ている所がたくさんあるんだなあ。	※　登場人物の行動や会話などの描写から，人物の性格や気持ちを関連的にとらえ，想像力を働かせながら読んでいる。（ワークシートへの書き込み）
		5　話し合ったことを基に，松井さんの人物像を自分の文章でまとめる。 ・３つの紹介の書き方から，わたしは，この書き方に挑戦してみよう。 ・「白いぼうし」やシリーズの他の話を読んで分かったこと，友達との話し合いなどを生かして，松井さんの人柄を分かりやすい紹介文にまとめよう。	○　叙述を基に想像して読めている子どもには，語彙集を与え，読み手の興味を引き付けられるような紹介表現を工夫させる。 ○　叙述を基に想像して読めていない子どもには，これまでに学習した性格や気持ちの読み方を学習ボードなどを使って想起させ，個別指導を行う。
10	終末	6　書いたものを交流し，よいところを見付けて感想を伝え合う。 ・○○さんの書き方は，とてもいいな。自分の表現にも生かしてみよう。	書いたことを読んで発表するだけではなく，なぜこのような人物として読めるのかなど，叙述に基づいた理由や根拠を補足説明しながら，お互いの考えを交流させるようにする。
		7　学習の成果を話し合う。 ・登場人物の紹介には，名前や正体，性格などを書くといいんだね。 ・人物の絵も一緒に描くといいね。 ・会話や行動をつないで読むと，その人物の性格や気持ちが読めるんだね。	
		8　次時の学習への期待感をもたせる。 ・色・音・においなどに気を付けて読み場面の様子を想像しながら，話のイメージにぴったりの絵を描くぞ。	次時は，おすすめの場面を選び，リーフレットの表紙絵を描いたりすることを知らせ，学習に対する意欲を高める。

⑸　音読劇の指導

これまでの学習を生かす場として，10月教材「一つの花」では，保護者を招いての音読劇発表会を開いた。

図12　グループでの音読発表の様子

図13　全体発表「一つの花」の音読劇

どの児童も４月の頃に比べ，全文を暗唱し，声の出し方を工夫したり，大きな動作を付けたりして，堂々とまた，生き生きと自分の感じた感動や思いを音読にのせて，保護者の前で発表することができた。

特に，戦争を題材にした「一つの花」の全体発表では，児童の真剣な演技に感動の涙を流される保護者も多かった。ここでの学習は，11月の学習発表会「わたしのいもうと」の学年全体による音読発表にも生かされ，同じく会場が涙に包まれ１年間の音読学習を締めくくるよい機会となった。

６．成果と課題

音読に関する指導を１年間に渡って系統的に行ってきたことで，児童の音読の力は確実に高まり，また，「読むこと」の能力だけではなく，音声化という観点から，スピーチに関わる能力までも十分に育ってきたと言える。

今後，言語活動の充実を図るに当たり，本実践を通して，まずは，これまでに行ってきた活動の意義や指導法の見直しが大切であることを，１年間の児童の成長の様子から感じることができた。

図15　半成人式でスピーチする児童の様子

図14　「一つの花」の板書（10月）

国語科学習指導略案

平成２１年９月１８日（金）　２校時
４年１組　３１名　指導者　屋原貴光

本授業では，以下の検証を行うものである。
○　音読劇発表という具体的な言語活動を通して，言葉の意味や働きを吟味したり，登場人物の心情や場面の変化をとらえたりして，読み取ったことを音読に生かすことができたか。

１　単　　元　場面をくらべてよもう　「一つの花」

２　指導計画（総時数１０時間）

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
課題をつかむ	１「一つの花」の範読ＣＤを聞き，初発の感想を発表する。 ２　新出漢字の読み方・書き方を学習する。 ３　学習のめあてを決め，学習計画を立てる。 「一つの花」を感動いっぱいの音読劇にして発表しよう。 【関：音読劇に関心をもち，観衆を感動させたいという意欲をもっている。】	２
情報をもとに考える 情報を読み取る	４　①の場面「～だの」「～どころではない」「～しか」などの表現を手がかりに，戦争の激しかった頃の情景（時代など）をとらえる。 【言：言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付き，作者のこだわりや伝えたい思いを感じている。】 ５　④，⑤の場面のお父さん・お母さん・ゆみ子の会話文や行動を手がかりに，登場人物の心情を読み取り，音読する。 ６　戦後十年経った⑥の場面の情景と，戦中の①の場面を比べて読む。 【読：観点に気を付けながら，叙述を基に情景を想像し，比べて読んでいる。】 ７　グループで範囲や役割を決め，シナリオを書く。 ８　シナリオに卜書きや音読記号を書き入れ，音読練習をする。	３ 本時 ３
主体的に表現する	９　音読劇発表会を開き，それぞれのよいところを見付けて感想を伝え合う。 【読：音読劇の仕方を理解するとともに，自分が想像した場面の様子や登場人物の心情を観衆にもよく分かるように工夫して音読している。】	２

３　本　　時（３／１０）

(1)　目標
言葉の意味や働きを手がかりに，場面の様子を想像して読んだり，読んだことを生かして音読を工夫したりすることができるようにする。

(2)　評価規準
戦争が激しかった時代や物が不足していた頃の情景を想像し，その場面や人物像に合うよう工夫しながら音読している。　【読む能力】

(3)　指導に当たって
本時では，これまでの学習（「三つのお願い」「春のうた」「白いぼうし」）を生かして，場面を想像して読む力，声に出して読む力をさらに高めていくことをねらいとしている。導入では，自分たちで作った招待券を見に来てほしい方々やお世話になった方々へ事前配布させておくことで，発表会に対する意欲を高めるとともに，相手意識・目的意識を明確にもたせるようにする。展開では，既習の「にた意味の言葉」と関連付け，言葉の働きを吟味させながら，場面の様子を想像して読ませたり，えんぴつ読みで登場人物の心情を想像して読ませたりする。また，場面の様子に合った声の出し方や動作を考えさせるようにし，段階的に音読劇としてまとめ上げていく。終末では，多くの観衆を招いて実際に音読劇発表会を開き，学習に対する達成感を味わわせるとともに，感想を述べたり受け止めたりする力を育てることができるようにする。

(4)　本時の展開　　〔　〕子どもの意識　□→教師の手立て　※評価

時	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価
(分) 7	導入	1　①の場面を音読し，学習範囲の確認と自らの声の出し方の課題をとらえる。 ・今日は①の場面を学習するんだな。 ・自分の読み方は，①の場面の様子に合っているのかな。上手に読みたいな。 2　学習のめあてと進め方を確かめる。 どのように読めば，人物像や場面の様子に合う音読になるのだろう。 ・ゆみ子って，どんな子なのだろう。 ・「戦争のはげしかったころ」って，どんな時代だったんだろう。 導入で，試しの音読をさせておくことで，自らの学習の成果を自覚できるようにする。また，学習の範囲を確認させておくことで，読み取りの場面を焦点化させておく。 学習の見通しがもてるよう，学習計画表で本時の位置を確かめさせたり，学習の流れをいつでも確認できるよう板書にまとめたりしておく。
28	展開	3　叙述を基に，ゆみ子の人物像を探る。 ・「はっきり覚えた最初の言葉」だから，０～１歳くらいかな。 ・⑥の場面「十年の月日がすぎました。」とあるから。この時のゆみ子は，自分たちと同じ年くらいだと思うよ。 4　「～だの」「～どころではない」「～しか」などの言葉から，戦時中の物が不足していた時代の様子を想像して読む。 ・「～だの」を「～や」に置き換えてみると，少し意味が違ってくるなあ。 ・「～しか」ということは，本当に物が不足していたんだろうな。つらいな。 5　読み取ったことを生かし，工夫しながら音読の練習をする。 ・ゆみ子役，お母さん役，ナレーター役２人（計４人）に分かれて練習しよう。 登場人物の心情の変化や情景（時代など）の変化を，作品全体から関連付けたり比べたりしながら読めるようにするため，教材文を１枚にまとめた全文シートを用意し，活用させる。 ※　戦争が激しかった時代や物が不足していた頃の情景を想像し，その場面や人物像に合うよう工夫しながら音読している。 （活動の様子，印や書き込みの観察） ○　声の出し方が工夫できている子どもには，暗唱に挑戦させたり，場面の様子に合う動作を考えさせたりする。 ○　声の出し方が工夫できていない子どもには，学習ボードを手がかりに想像を広げさせ，声の出し方を個別に指導する。
10	終末	6　音読を発表し合い，学習の成果を短い文章でまとめる。 ・言葉の働きを手がかりに，登場人物の人物像や情景（時代など）をとらえれば，場面の様子に合う音読ができる。 7　今後の学習へ意欲をもたせる。 ・①の場面の音読の仕方が分かったぞ。 ・次は，お父さんの台詞も上手に読めるようになりたいな。 学習の成果を短い文でまとめさせることで，「想像して読む」という読み方を自覚化させる。また，ここでまとめた文章は，音読劇発表会の実際場面でナレーターによる解説文として活用することを知らせておくようにする。 次時では，④，⑤の場面を中心に，登場人物の心情把握を生かした音読に挑戦することを知らせ，意欲を高める。